



新年のご挨拶

株式会社北海道しんきん情報サービス
代表取締役社長

増田 正二 (帯広信用金庫 会長)



新年あけましておめでとうございます。

平成31年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。弊社の業務運営につきましては、日頃から温かいご支援を賜り衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、昨年もまた、激動の一年でありました。私たち団塊の世代は、まさに混沌とした時代を生きてきましたが、現在もまた、その頃とは質の違う混迷を深める時代となり、真実を見極める目を持つことが容易ではない世の中になっていると感じております。

デジタル的思考がますます強まり、人は打算的になり、人間的、精神的な繋がりが急速に薄らいでいる現代、今一度古き良き時代を見直していくことも必要ではないかと思わずにはいられません。しかし、年齢を重ねるごとに一年の過ぎる速さが増していることは間違いないにせよ、それ以上に世の中の変化のスピードは想像をはるかに超えるものであり、今年もまた新年を迎えて振り返りますと、過ぎ行く速さと起こっていた事の多さ、大きさに、一驚を喫するのであります。

昨年最大の出来事としては、何と言っても身近で未曾有の大震災が起きました。9月6日未明に発生しました平成30年北海道胆振東部地震。北海道全域が、これ程の影響を受けた震災は記憶にありません。特に震源地付近にて大きな被害に遭われた方々、いまだ仮設住宅等で不自由な生活を余儀なくされている方々には、改めまして心よりお見舞い申し上げます。北海道全域の大規模停電・ブラックアウトは、もちろん日本では初めての事態であり、突きつけられた

課題・問題は甚大です。現実問題の日本人、特に北海道民のリスク意識は低い感があり、今回の出来事で学ぶべき教訓は本当に大きなものがありました。それでも、今から4年前に全道的な業界の事業として策定を進めた「BCP」(事業継続計画)は、その力を發揮し、一定程度の実効性が認められたと感じたものでした。言うまでもなく、BCPは日頃の整備が不可欠であり、かつ職員一人一人がいかに中身を理解・把握し、いざという場面で動けるかということであり、反省点は今後に活かして繋げていくことが肝要です。地震のみならず、「記録的」という言葉が聞き慣れてしまうほど蔓延している近年の異常気象は、更にこれまで経験のない災害を惹起することでしょう。これからは、このような地球規模での幾多の問題と、少子高齢化や人口減少・過疎化といった地域経済縮小に向かう身近な問題に向き合い、ますます不安定化する厳しい時代を乗り切っていかなければなりません。

平成という時代もいよいよ終焉を迎え、また新たな時代が到来します。進化するシステム技術は、今後明るいニュースをもたらすツールになっていくことを期待し、その一端を担う会社として弊社は業界発展のために尽力することを惜しまず、信用金庫の発展と地域の発展は密接不可分な関係であることを常に念頭に置き、今年もまた一年、活動していくことを存じます。どうか一層のご支援ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。結びになりますが、新しい年が皆様にとりまして輝かしい一年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

(株)北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 委員長

田原 栄輝 (道南うみ街信用金庫 常務理事)



新年明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、システム検討委員会の運営にあたり格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

今年は、新しい元号に変わる節目の年であるとともに、消費税率引き上げに伴う軽減税率対応等から、消費の仕方や生活スタイルまでもが変わらるような、社会の変化が目に見える形で現れる年となりそうです。

これまでも、様々な規制の下に形作られてきた社会の隙間にICT産業が萌芽し、見る見るうちにその隙間を大きく抉り開け社会の形を変えてきました。

それらのいくつかは「プラットフォーマー」と呼ばれるようになり、提供されるサービスはその範囲を広げ、我々の生活を今もより便利にし続けています。

これ程までのスピードでこれらが実現した理由の一つには、法律や規制の想定が及ばないビジネスモデルであったがために、自由に形を変えながら社会のニーズを上回る想像力を以って、これまでにない便益を供給した結果であると思われます。

一方で、情報収集方法や情報流出等、「手枷・足枷」がないことによる弊害も顕現してきており、規制強化の動きも始まっております。

規制産業に挙げられる金融業は、「安全・安心」を旗印に、お取引を頂くお客様からの「信用」を一義としてきましたが、我々が一括提供してきた金融機能も「アンバンドリング」され、ベンチャーやスタートアップ企業に止まらず、

様々な業態の参画が始まっています。

既に「キャッシュレス」決済は、流通系や交通系に加え、プラットフォーマー等が「リバンドリング」することにより、これまでの決済機能の概念をも変え始めています。

然しながら今はまだ、ことお金に関しては「安心・安全」と「信用」が最優先であり、仮想通貨の流出(紛失?)事件の顛末が「フィンテック」という言葉を色褪せさせる程のインパクトをもたらしたことはその証左とも言えます。

今後、プラットフォーマー等に対する規制強化がなされた場合、それでもなお、これまで以上の便益を供給し続けられるのか否か、受益者は相応のリスクを許容しながら便益の享受を優先していくことになるのか。

我々金融機関は様々な規制の下、既に安心・安全なプラットフォームを構築し社会からの信用を得ています。

先の震災時においてキャッシュの重要性が再認識されたことからも、業態を超えて協調し、社会が求める金融服务を過去の延長線上の思考から脱却して創造(想像)さえできれば、我々金融機関には一日の長があります。

システム検討委員会は、信用金庫業界発展のため、課題解決・情報共有に加え、創造(想像)力磨き上げの場としても活動して参りますので、本年も委員会活動へのご支援、並びにご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

結びに、新しい年が信用金庫並びに役職員にとりまして輝かしい一年となりますことをご祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

(株)北海道しんきん情報サービス
システム検討委員会 副委員長

橋野 聖一 (稚内信用金庫 常勤理事)
(しんきん共同センター 事業運営委員会 委員)



新年あけましておめでとうございます。

平成最後の31年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年9月に発生した北海道胆振東部地震で被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。今回の地震は、震度7という北海道で初めて経験するものであり多くのインフラが被害を受けました。特に直後に発生したブラックアウトは、離島を除く北海道全域に及び、既存のBCPの見直しを迫られました。

また、世界的な猛暑、西日本での豪雨等私たちが今まで経験したことのない気候変動が起きています。BCPの改定も必要ですが、想定外の災害を想定するよりも、何を守るべきなのか、最低限すべきことは何なのかを日頃より考えておくこそが重要なのだと考える次第です。

さて、昨年1月にしんきん共同センターにおきまして、「次期システム検討ワーキング会議」が設置され、委員に任せられました。会議の目的は、今年更改を行う基幹系システムの次の更改、8年後の更改時にどのようなシステム更改を行うのかを提言することです。

全国11の地区から選定された委員により都合5回の会議が開催され、会議では忌憚なく意見が交わされました。今月には、最終的に提言を纏めることになっておりますが、第三次システムを改修しながら使い続けてきた現行システムは踏襲せず、基幹系(勘定系)システムはできるだけスリムにし、開発費は多額となってしまうが、将来的なシステム開発を安全で低コストに抑えられるシステム

構築を目指します。

また、しんきん共同センターの「事業運営委員会」につきましては、今年8月より委員会に出席しております。

この委員会は、理事長の諮問機関として、経営会議による事業運営に係る審議・決議を補佐することを目的としています。

各会議に出席し、他地区の信用金庫と情報交換を行っておりますと北海道地区の優位性を感じられます。信用金庫間の連携の強さもさることながら、地域情報会社、HSISの有用性が実感されます。

しんきん共同センターでシステム化しない情報系のシステムは地域情報会社が対応していけば良いと考えますが、自地区の情報会社では対応できないと考えている金庫も少なくありません。金庫の為になることは、なんでもやるHSISの姿勢に改めて感謝を申し上げ、これからも変わらず信用金庫の為に、そして、信用金庫の向こう側にいるお客様の為に努められますようお願い申し上げます。

私も、北海道を代表している責務を果たすよう努力していく所存ですので、皆様のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様がご健勝でありますことをご祈念申し上げ新年のご挨拶といたします。



新年のご挨拶

(株)北海道しんきん情報サービス
代表取締役専務

竹谷 信行



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、弊社の業務・運営にご理解ご協力を賜り、誠に
厚くお礼申し上げます。

昨年は、日本中で大規模な自然災害が頻発し、北海道
でも9月に台風そして引き続きの胆振東部地震とその被
害は大変深刻かつ甚大なものでした。さらに、それは、道内
全域での停電という未曾有の事態を誘発し、製造、物流、
通信、交通、すべての機能に影響を与えました。

幸い、弊社のビルは、免震ビルのため被害はなく、また自
家発電装置がすぐに作動し、さらに、パートを含めた職員
が自主的に出勤してくれたおかげで業務を継続するこ
とができましたが、今後は、交通機関が動いていない状況
で、いかに人員を確保するかが、重要な課題であると感じ
ました。また、自家発電といつても暖房までは難しく、これ
も課題の一つです。

道内の信用金庫にとっても今回の全域における停電に
より、実効性のあるBCP策定が問われることとなり、現在
全金庫共通課題として北信協の経営対策委員会のテーマ
として取り上げられ、弊社が金庫の専担者によるワーキン
ググループを立ち上げ、お手伝いすることとなりました。さ
らには、共通的テーマとして、マネロン・テロ資金供与対策
についてもワーキンググループを立ち上げ、第一回目を、
それぞれ昨年の11月に開催させていただきました。

さて、最近のテクノジーの進展はすさまじいものがあり、
あらゆる分野の産業にまで影響てきて、第4次産業革命

の到来とまで言われています。

金融機関のITシステムも、AI・RPA、スマートフォンアプ
リ、等々それらの技術を使ったシステムの登場や、ブロック
チェーン技術の利用等により、これからは、金庫の業務内
容、店舗としての役割等を再考させられる新しい時代が到
来することになりそうです。

したがって、弊社ができるることは、金庫と一緒にこれらの
状況にきちんと向き合い、勉強し、その新しいステージに
共に立つ準備をすることだと思います。

こういった意味で、昨年は手始めに業務の効率化の観
点からRPA研究会を立ち上げ専門家を招いて2回にわたり
勉強会を開催いたしました。今年も引き続きこの研究会
を継続開催し、金庫の業務で共通するものは弊社で開発し
ていくつもりです。

そのほか、地域活性化の一助となるよう立ち上げた
WEBサイト「北海道すぐれもんShopping!!」、につきま
しても、徐々に認知度が増し売り上げも増えてきました。
今年はさらに販路拡大に向け様々な試みを行っていこうと
思っております。

今後とも、全国の情報サービス会社との連携を強化し
信用金庫に役立つ存在になっていきたいと思っております
のでご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、今年が、皆様にとりまして、飛躍、
ご発展の年となりますようお祈り申し上げて新年のご挨
拶とさせていただきます。

発行：株式会社北海道しんきん情報サービス

〒060-0032 札幌市中央区北2条東7丁目 HBAシステムビル TEL.011-233-1212(代) FAX.011-261-1811